

Case Study

KnowBe4を活用し グループ全体で 「ヒューマンファイア ウォール」を実現

EPS EPSデジタルシェア株式会社

業種	本社
情報サービス業	東京都

楽しんでもらえるコンテンツを通して従業員の73%がセキュリティ意識向上を実感

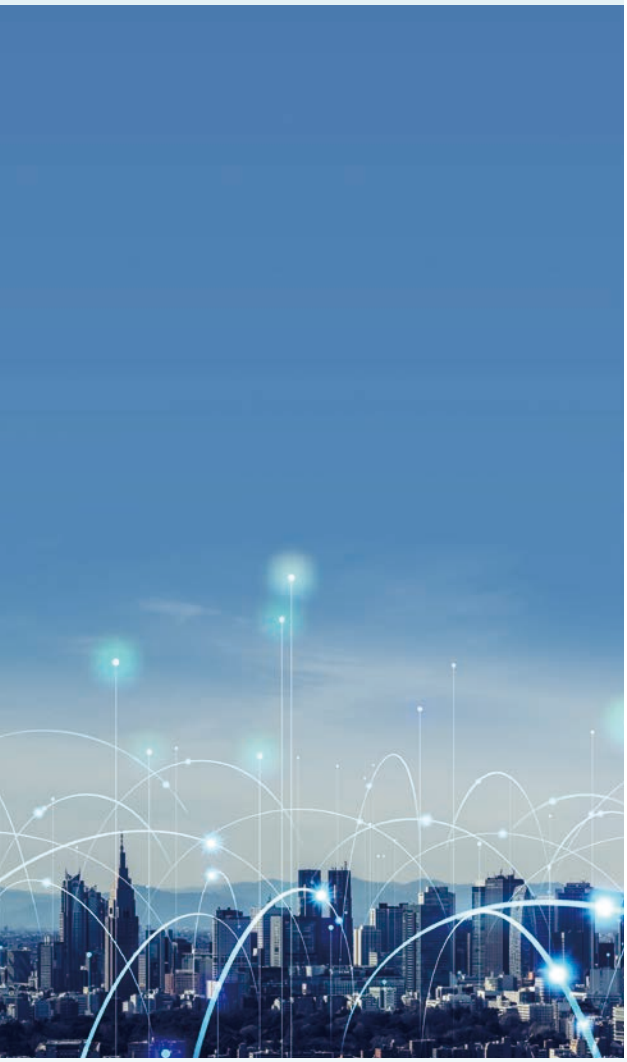
製品

Security Awareness Training
PhishER

新型コロナ禍を機にあらためて医療に注目が集まる中、EPSグループは、新薬の開発試験を支援する臨床・治験支援サービスを中心に、健康産業をサポートしている。EPSデジタルシェアは、そんなグループ各社のITインフラやアプリケーションをシェアードサービスの形で提供し、ビジネスを下支えするとともに、グループ全体でのセキュリティ水準向上に取り組んでおり、KnowBe4を生かして「ヒューマンファイアウォール」の実現を進めている。

ポイント

- 医療業界に求められる高いセキュリティ意識をグループ全体で実現
- 楽しめるコンテンツを通してセキュリティへの興味を高め、自分ごとに
- 教育や訓練結果から世間の水準との比較や警戒すべき攻撃手法を分析し、継続的な改善に活用



「KnowBe4が、従業員一人一人がセキュリティに興味を持ってもらうきっかけを与えてくれたと考えています」

EPSデジタルシェア株式会社
ITサービスセンター グループセキュリティ支援室　室長
吉田伸治氏
※内容は取材当時のものです。

●医療業界に求められる人のセキュリティ耐性、グループ全体での達成が課題に

EPSグループでは、各社が個別に構築してきたITインフラの統合を進めている。並行して取り組んでいるのがセキュリティレベルの向上だ。万一、治験や新薬に関する情報が漏れてしまう事態ともなれば顧客にも大きなダメージを与えてしまう。

「EPSグループには製薬会社や病院といった医療関連のお客様が多く、情報漏洩対策をはじめとするセキュリティ対策を非常に気にされています。我々がどのようなセキュリティ対策を実施し、運用しているかが、EPSグループの事業にも大きく関係します」

EPSデジタルシェア株式会社
管理サービス本部 ITサービスセンター 基盤システム1部　部長
増田剛氏
※内容は取材当時のものです。

こうした背景から2022年にグループセキュリティ支援室を設立し、インフラそのものの防御の強化とグループ全体のセキュリティポリシーの整備、そして人のセキュリティ耐性の強化という三本の柱で対策を強化してきた。

中でも重視しているのが人のセキュリティだ。だが「以前は個社でそれぞれ実施していたため、しっかり実施しているところもあれば、リソース不足で手が回りきらないところもあるという具合に足並みがそろっていませんでした」（吉田氏）という課題を抱いていた。

また、攻撃メール訓練も年に2回実施していたが、

「年に2回の頻度では一過性のもので終わってしまい、訓練自体が目的になっていないか、本当にリテラシーの底上げにつながっているのか疑問がありました。訓練だけで終わらせず、その結果に基づいて教育も実施し、点と点を線でつなげていかなければいけないと考えていました」（吉田氏）

●豊富で飽きないコンテンツを通して、一人一人がセキュリティに興味を

一般にセキュリティはお堅いイメージを持たれる上に、研修もやらされ感が先行しがちだが、セキュリティリテラシーを一定水準以上に高めていくには従業員一人一人の理解が不可欠だ。そこで「セキュリティを自分事にしていくには面白さや楽しさが必要だと考え、そうした性質を持つソリューションを意識して探していきました」と吉田氏は振り返った。

いくつかの教育ソリューションをピックアップし、評価してみると、コンテンツ配信や進捗管理といった基本的な機能に大差はなかった。その中でKnowBe4は「コンテンツの豊富さや、ユーザーを飽きさせないさまざまな仕掛けが充実していました。ユーザー目線で見たときに、私自身がこの教育を受けてみたいと感じました」（吉田氏）という。

もう一つポイントとなったのが「PhishER」だ。EPSデジタルシェアは以前から、従業員から不審メールを転送してもらう窓口を設け、手動で解析を行っていた。



「オフライン環境で解析していたとはいえリスクは残りますし、他のさまざまな業務と並行して人力で解析を行うのにはどうしても限界があります。どうしたものかと考えていたところに、通報メールを自動で分析・仕分けできる『PhishER』は、求めていた要件にぴったり合致しました」（吉田氏）

ユーザーが楽しんで受講でき、メール訓練も可能で、しかもそれが一つの画面上で可視化できる。さらに、PhishERによって日々の運用管理もいっそう効率化できるといった複数の利点を評価し、導入を決定した。

●地道な取り組みも相まって、セキュリティ意識や手口への理解が向上

EPSデジタルシェアでは、KnowBe4を用いたセキュリティ教育とメール訓練を「ヒューマンファイアウォール支援サービス」という形でサービス化し、8000名を超えるグループ各社の従業員へ提供している。

「年に2回、セキュリティ教育に関するレポートを作成し、年間計画とともに全社員に送付しています。資料冒頭には『何のためにヒューマンファイアウォールは活動しているのか』という目的を掲げ、一人一人の行動がセキュリティを守るのだということを繰り返し伝えています」（増田氏）

教育は毎月、訓練は年に2回の頻度で実施しているほか、政府のサイバーセキュリティ月間に習って年に2回の「キャンペーン期間」を設けた。キャンペーン期間中は「サポート詐欺」「CEO詐欺」のように、その時々のトレンドを踏まえたトピックを取り上げ、特別教育を行っている。



「正解がない中、試せることは何でも試そうという方針でさまざまなアプローチを考え、我々自身も楽しみながら取り組んでいます」

EPSデジタルシェア株式会社
管理サービス本部 ITサービスセンター
基盤システム1部
二階堂悠氏
※内容は取材当時のものです。

当初、月に1回のセキュリティ教育は従業員の負荷が高いのではないかという声があったのも事実だ。だがKnowBe4の動画は5分程度にコンパクトにまとまっており、業務の合間に閲覧できる。内容の面白さも相まって定着しており、受講率は右肩上がりで向上している。特に、メール訓練でクリックしてしまった開封者向けの教育は9割以上と高い数字になっている。

KnowBe4の教育コンテンツに対する評判は上々だ。「海外ドラマのようなシナリオで、従業員の皆さんも『早く続きが見たい』と楽しみにしてもらっています。中には、家族で楽しんでいる方もいるそうです」（吉田氏）と、当初の狙い通り楽しみながら受講している。

ただ楽しむだけでなく、教育効果も得られている。

「従業員全員を対象にしたアンケートでは、73%が『セキュリティ意識の向上につながった』、69%が『標的型攻撃メールの特徴や手口に関する理解度が向上したと回答しており、我々にとってもうれしい結果になりました」
（増田氏）

不審なメールはPhish Alert Button（PAB）によりワンクリックで報告できるため、社内での報告意識が高まり、報告数も増加傾向にある。

もう一つ大きな効果を感じているのがアセスメントだ。教育や訓練を行って終わりではなく、結果を可視化し、さらに「セキュリティ意識レベルの習熟度評価」（SAPA）によって総合的に分析し、次の施策へつなげるサイクルが確立できた。

「以前ベンダーに依頼していたメール訓練では、ありきたりなコメントしか得られませんでした。KnowBe4では、世の中の平均と比べて我々のリテラシーはどのレベルにあるかを把握し、どういった手口に弱いのか、リスクを分析して次の強化につなげることができています」（増田氏）

分析結果は経営層やホールディングスにも共有し、それがセキュリティ施策のさらなる後押しになっている。

●分析結果を参考に、AIも活用しながらさらなる強化を図る

このようにEPSデジタルシェアでは、KnowBe4というプラットフォームを生かしつつ、あの手、この手で地道な働きかけを繰り返し、刷り込みを図ることで、セキュリティに対する意識は確実に向上してきたと手応えを感じている。

SAPAに加え「セキュリティカルチャー評価」（SCS）も実施した。「この結果をベンチマークにして、今後どのように改善していくかを引き続き検討していきます」（吉田氏）。また、各従業員に最適なトレーニングをAIが提案する「AIDA」のPoCも進めており、さらなるリテラシー向上につなげていく方針だ。



「KnowBe4が、従業員一人一人がセキュリティに興味を持ってもらうきっかけを与えてくれたと考えています。日々技術は進化しますが、人のセキュリティ教育という軸は変わりません。KnowBe4の支援を活用しながら、引き続きさらなる強化を追求していきます」（吉田氏）

KnowBe4 Japan G.K.
Midtown Tower 18F 9-7-1 Akasaka,Minato-ku, Tokyo 107-0052 Japan I https://www.knowbe4.com/ja/

© 2026 KnowBe4, Inc. All rights reserved.Other product and company names mentioned herein may be trademarks and/or registered trademarks of their respective companies.